

文部科学省選定

放火を防ぐ 第一歩 放火させない環境づくり

毎年 火災原因の1位は「放火」



放火されやすい条件とは?



放火されないようにするには?



企画意図

全国各地で火災が発生し、多くの方が亡くなっています。犠牲者が出た火災の原因で一番多いのは、放火です。放火による火災は延焼が広がりやすく、発見が遅れてしまうからです。火災による悲劇を防ぐには、放火対策が欠かせません。

放火対策には、個人としての対策に加えて、放火を許さない街づくりのための地域全体での取り組みが必要になってきます。

本作品では、放火による火災の実態と特徴、個人としてできる放火対策、地域の放火対策を紹介し、地域みんなで安全な街づくりに取り組むことの大切さを訴えます。

作品概要

■火災の恐ろしさと放火

すさまじく燃え上がる炎。懸命な消火活動。住宅火災の映像を重ねて——全国の火災の出火原因の中で、常にトップなのが放火である。

■放火による火災の実態と特徴

神奈川県横須賀市でも、放火関連の火災は20年間連続で火災原因のトップである。2012年の放火が原因の火災は全体の29%を占めている。放火犯は、どのような所を狙っているのだろうか？

・横須賀市の連続放火事件現場を捉えて——

新築中の建物やモデルハウスなどの空き家は、一旦侵入してしまうと人目に付きにくく放火犯のターゲットになりやすい。

・放火が多い場所の特徴を捉えて——

賑やかな商店街も、一本裏通りに入ると人通りは少なく、人目につきづらい。特に路地入り口付近は、放火した後、人ごみに紛れて逃げられるので狙われやすい場所である。駐車場の車の陰や自動販売機の陰なども危険な場所だ。

アパート、マンションの階段付近や駐車場、駐輪場、燃えやすいゴミがあるゴミ集積場も人目につきづらくターゲットになりやすい。落書きがあったり、自転車が放置されるなど、住民が地域に無関心だという印象を与えるような暗くて汚い場所も放火されやすい場所だ。

■住宅周辺における放火対策

放火を防ぐには、燃えやすいものを周囲に放置しないことを基本として、侵入しにくくする、人目につきやすくする対策が必要だ。自宅の周囲に古新聞やゴミを放置しない。郵便受けに新聞チラシをためておかない。ゴミはなるべく収集時刻に合わせて廃棄する。放火犯が侵入しにくくなるよう門にはカギをかける。物置や車庫の扉には、必ずカギをかける。

・死角対策——塀を金網にしたり、植え込みを低

くするなどして、外から見えるようにすることが効果的。夜間照明、防犯照明を設置するなど暗がりもなくす対策が必要。

・車やバイクに対する放火対策——防炎性のカバーを使うと放火されても燃えにくい。

■地域で守る—放火犯に狙われない街づくり

放火を防ぐには、個人の対策だけでなく、地域全体で守る事も重要である。

・地域住民による夜間パトロール——目立つ服装で実施し、パトロールしていることを見せることが犯罪防止につながる。ゴミやチラシを排除し、切れた街灯をチェックするなど、町内を明るくきれいにすることで放火防止につながる。

・婦人防火クラブの通学児童見守りや、ボランティアによる街の清掃活動も放火防止の一つである。活動をしている市民にマイクを向ける。実際にどんなことに気をつけて活動しているのか、どのような効果があったか…様々な声を通して、地域ぐるみの放火対策の必要性を訴える。

●監修：東京理科大学総合研究機構 教授
工学博士 菅原 進一

●協力：横須賀市消防局
横須賀市衣笠地区本公郷町内会
日本市民安全学会

●企画・制作統括：高木 裕己／杉 正文
脚 本・演 出：川崎 けい子

●制作協力：有限会社 博映商事

●制作・著作：株式会社 映学社

■VHS・DVD[カラー・19分]

ライブラリー価格 **¥65,000** (本体価格)

・2013年・映学社作品